

# ふるさとへぐり再発見

## 古墳の外形

10



古墳の外形には色々な形があり、規模の大小と共にその位置付けを考える重要な要素となります。

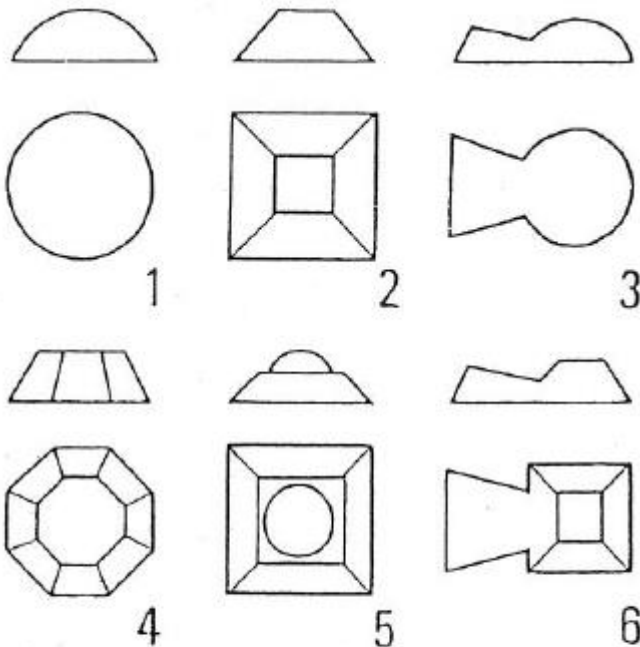
平群谷には今までのところ、円墳、方墳、前方後円墳の三形態が確認されています。

この中で、円墳が大部分を占めており、[宮山塚](#)・大塚山・宮裏山・四辻古墳等がこの形です。方墳では[西宮古墳](#)・西宮2号墳があり、[ツボリ山古墳](#)もこの形とみられます。前方後円墳では[鳥土塚古墳](#)があり、平群谷最大の規模を誇っています。また、[三里古墳](#)もこの形の可能性があります。三郷町内になりますが平群谷の南側にあった勢野茶臼山古墳(消滅)がこの形でした。

規模の大きい古墳について、竜田川の西岸ではこの三形態を時代順に区別することができ、円墳→前方後円墳→方墳と変化していきます。円墳は5世紀後半から6世紀中ごろ、前方後円墳が6世紀末から7世紀代に築かれています。

一方、東岸では前方後円墳の可能性のある[三里古墳](#)を除いて知られている古墳はすべて円墳です。このことから、竜田川の両岸で古墳の在り方が異なり、なんらかの区別があったのかもしれない。

古墳の外形変化も天皇陵の外形変化と密接に結びついていると考えられます。



古墳の外形(模式図)

- |   |       |   |       |
|---|-------|---|-------|
| 1 | 円墳    | 4 | 八角墳   |
| 2 | 方墳    | 5 | 上円下方墳 |
| 3 | 前方後円墳 | 6 | 前方後方墳 |